

八王子市における中学校教員の負担の軽減のための 大学生による新たな部活動運営

New club activity management by university students to reduce burden on junior high school teachers in Hachioji City

創価大学経済学部経済学科寺田ゼミ
河口由香、坂本和志、須藤大樹、丹羽涼太、松浦果成、柳典真
指導教員 寺田和之

創価大学 経済学部 経済学科 寺田ゼミ

現代日本における学校教員の負担が大きいことは深刻かつ明確な課題である。学園都市である八王子市の特徴を生かし、大学生による部活動のサポートという側面から、教員の負担を軽減させることができると考え、研究を進めた。研究結果を踏まえ、私たちはWebサイトを通じた新たな部活動運営を提案する。

キーワード：部活動の地域移行、教員の負担軽減、スポーツ振興、文化振興、学園都市

1. 設定理由

近年の日本の教育の現場においては、人手不足が深刻な問題であり、特に放課後や休日も行われる部活動の担当をしている中学校教員の負担は大きい。スポーツ庁、文化庁は、部活動顧問の負担が過度とならないように持続可能な運営体制を整えることを推進しており、その一環として、部活動の地域移行を挙げている。私たちは多くの大学が所在する八王子市の特色を活かし、大学生が部活動業務を代行することで、中学校教員の負担が軽減されるのではないかと考え、調査を行った。

2. 教員の負担を軽減する方法

中学校教員の負担軽減に向け以下を考えた。

1. 経験者による技術指導 (以下「①」と略)
⇒その競技の経験があり、中学生に対しての技術指導ができるレベルを要する。
2. 監督業務 (以下「②」と略)
⇒部活中の生徒の監視、体調不良の生徒の対応など、生徒の安全確保に努める。
3. 大学生との合同練習 (以下「③」と略)
※①と②は週に1回以上部活に参加できる機会があり、それが継続的であることが条件。

3. アンケート調査

創価大学生 66 人に対して、Google フォームを用いたアンケートを行った。このアンケートでは、これまでに部活、サークルまたはそれに準ずるものに所属していた経験の有無やその競技/分野の経験年数、各学生の上記の3つのアプローチに対しての賛否、①と②について、どのくらいの賃金の下で働きたいと思うかなどを調査した。

4. 調査結果と考察

(1) ①と②に対する意思について

回答者 66 人のうち、これまでに部活動などで競技/分野の経験があるのは 64 人で、①を「無償でもやりたい」と答えたのが 16 人で 25%、「報酬によってはやりたい」と答えたのが 26 人で 40.6%だった。約 3 人に 2 人が①について肯定的な意思があることが分かった。

また、②については、「無償でもやりたい」と答えたのが 5 人で 7.6%、「報酬によってはやりたい」と答えたのが 37 人で 56.1%だった。66 人のうち 42 人が②について肯定的であることが分かり、①の方が「無償でもやりたい」と答える人の割合が高かった。

下図は、①を「報酬によってはやりたい」と答えた人（26人）と②を「報酬によってはやりたい」と答えた人（37人）がそれぞれの賃金の下で、週に何回、中学校に赴いての①または②ができるかを表にしたものである。

	時給（円）	1163	1263	1363	1463
① 26人	人数	18	23	23	25
	回/週の平均	1.7	2.5	2.5	3
② 37人	人数	30	35	35	36
	回/週の平均	1.9	2.6	3.0	3.4

①については、東京都の最低賃金である1163円の下で26人のうち、18人が週に1回以上中学校に赴いての活動ができると答え、週に活動できる回数の平均は1.7回であった。②は、最低賃金の下で、37人のうち、30人が週に1回以上活動ができると答え、週に活動できる回数の平均は1.9回であった。

(2) 考察

上記の調査で①と②について「無償でもやりたい」と答えた人が、最低賃金が支払われる場合においても活動する場合、週に1回でも①ができるのは全体の51.5%、②については、全体の53%であった。以上の結果を約9万人の学生が学ぶ八王子市全体に置き換えて考えてみる。最低賃金の下で週に1回以上活動する意思のある学生は①が約46350人、②については約47700人いるということになる。もちろん他大学においても同じ調査結果が得られるわけではないが、多少の割引をしたとしても、八王子市内には、中学校の部活のために貢献する意思のある学生が多数いると言える。

5. 提案

(1) 事業概要

上記で述べた八王子市にある若い力を活かし、中学校教員の部活動における負担を削減するために、webサイトによる新たな八王子市全体の部活動運営を提案する。このサイト

では、①・②を欲している中学校の部活と、①・②として活動したい大学生がマッチングできる機能を主とする。

①・②を欲している中学の部活動と、①・②をしたい学生は、webサイト上に、必要事項を登録し、お互いの求める条件に合うような相手を探す。マッチングが成立したら、生徒の現状、指導方針、スケジュールなどを確認するための対面での研修を最低1回以上行い、正式に中学の部活に携わっていく。ガイドラインを教育委員会などの指示を仰ぎながら作成し、生徒の怪我や学生の諸問題についてはそれに乗っ取って対応するものとする。

(2) 運営資金について

中学校教員の部活動対応に対する給与は十分に支払われていない現状がある。毎回の部活を対応し、妥当でない給与を受け取るよりも、部活に割く時間を極力カットし、十分な余暇を取る方が教員の効用増加につながる可能性がある。また、最低賃金においても活動する意思のある学生が多数いるということから、より少ないお金でより多くの部活を運営することが期待できる。

学生に支払われる給与とwebサイトの運営費の大部分は八王子市によって賄われるものとし、webサイトに掲載される広告収入からも一部補助されるものとする。八王子市にとっての支出の対価としては、この革新的な取り組みによる市の知名度や好感度の向上、それに伴った教員志望者の増加、市の経済活動の活性化などが挙げられる。

(3) 今後の展望

このwebサイトでは、調査で約2/3の学生が賛成をした③についてもマッチングできる機能を導入し、高校の部活や小学校クラブ、社会人チームなどの参入も予定している。未来ある子供たちのスポーツや文化的活動の機会を、市をあげて支援していくという新しい部活動運営の形態が、八王子をより魅力的な街にすることに繋がっていく。